

# 医療安全情報レポート

vol.12

## 働くみんなの医療安全

医療現場ではさまざまなコミュニケーションが、複数のスタッフ間で交わされています。いかに自分が認識したことを正確に伝え、さらに自分の意見を付け加えることが**医療安全**にも重要です。

“相手にわかりやすく伝えてありますか？”

### 《SBAR (エスバー)》

次の4つの要素を意識して順番に伝える

**Situation**：状況（患者に何が起きているのか）

**Background**：背景（患者の臨床的背景は何か）

**Assessment**：考察（問題に対する自分の考えは何か）

**Recommendation**：提案（問題に対する自分の提案は何か）

参考：チームステップス日本版医療安全 チームで取り組むヒューマンエラー対策より

緊急の注意喚起や対応が必要な状況において、情報を**确实・効果的に**伝達するため、**状況・背景・考察・提案**に分けて明瞭に伝達するひとつのツールがあります。

次の事例は要点がちゃんと伝わっているでしょうか？

【事例】看護師から当直医師への電話報告です。

看護師：今日、腹痛で入院した患者の〇〇さんですけど、今、汗をかいています。

医師：えっ？入院した病名は何ですか？

看護師：ちょっと、待ってください。（電子カルテを調べる）原因をこれから調べるようです。

医師：バイタルサインはどうですか？

看護師：今から測ってきます。



### SBARを使った場合



【模範事例】看護師：A病棟看護師の〇〇です。今、よろしいでしょうか？

医師：はい、なんでしょう。

**S：状況**

看護師：患者さん〇△◇□さん、52歳の女性です。今、腹痛を訴えているため、先生にコールしました。

**B：背景**

医師：それで？

看護師：この患者さんは腹痛精査のために、今日の午後に緊急入院されましたが、原因は精査中です。意識は清明、血圧160/96、P100、体温36.5℃、呼吸は早くありません。既往歴には、心筋梗塞と虫垂炎があります。ひどく痛がっています。

**A：考察**  
**R：提案**

手術歴もあるので絞扼性イレウスも心配です。

診察をお願いします。

医師：分かりました。すぐに行きます。

